今年の都留高校生が選ぶ十大ニュースは？

早いもので2023年も終わりを迎えようとしています。今年はどんな１年でしたか？さて、今年の漢字は「税」となりました。都留高新聞同好会では毎年、都留高生が選ぶ漢字１文字をアンケート調査していますが、今年は趣向を変えて都留高十大ニュースを独断で選びみました。納得できるものも多いのではないでしょうか。

コロナ禍から復活の年でした

今年度都留高校では新たに行われたことや復刻したこと等が行われてきました。その中で都留高校の10大ニュースを紹介していきたいと思います。（順不同です。）

まず１つ目は**都留高校で初の海外からの留学生を受け入れたこと**です。交流することで様々な価値観を持つことができたと思います。

２つ目は**よのなか科が開始されたこと**です。よのなか科は人生を教える科目であり、大人と子供でディスカッションを行ないます。そこで答えのない問いを考えていきます。普段聞かないことを大人と知り合えて聞くことができます。

３つ目は**ポロシャツが新たに導入されたこと**です。つる探の活動から導入することが決まったらしく、高校生活がより豊かなものになっています。

４つ目は**新たに校長先生が着任したこと**です。荻野校長先生はいつも生徒に挨拶してくださり、先生の出される「ときどき通信」はいつも機知に富んでいます。

５つ目は**大村先生のプレイバックパート2の歌唱が復活したこと**です。学年全体で盛り上がり、楽しい学園祭になったと思います。

６つ目は**学園祭で合唱が復活したこと**です。コロナの影響で活動ができない中合唱ができるようになり、都留高校に良い影響を与えていきました。

７つ目は**つる探の活動でフィリピンにランドセルを送ったこと**です。ランドセルを送るのはフィリピンではランドセルを個人で持つことは難しいので送ることによって貢献することができると思ったからだそうです。（詳細は次号で掲載予定）

８つ目は**仲條先生が結婚したこと**です。６年付き合って結婚したらしいです。おめでとうございます。

９つ目は**都留高校がNHKに取材されたこと**です。都留高校の魅力がより伝わるいい機会になったと思います。

最後の10番目は**図書館がリニューアルされたこと**です。つる探の活動により開始されました。読書や勉強が捗りそうですね。来年もどうなるか楽しみですね。（桜）

仲條先生の披露宴の一コマ。（写真にはぼかし加工を入れています＝本人了承済。）

歳末の募金活動

12月6日（水）、毎年この時期恒例の大月駅前募金活動が大月市ロータリークラブと都留高校の共催で行われた。

当日は朝７時より８時までの１時間、１・2年次ボランティア同好会および生徒会の生徒17名、生徒会職員２名、さらに校長先生も街頭募金への呼びかけを行った。現金を持ち歩かない人も増え、気持ちはあるが持ち合わせがない方も多くなってきている中、わざわざ駅前まで学校から歩いて募金箱を持ってきた生徒もいた。集まった金額は大月市に寄付され今後使い道など協議される模様だ。

大月駅前での募金活動の様子（12月６日）

1年生のための沖縄・修学旅行アドバイス

２年生は12月10日から13日まで沖縄へ修学旅行に行ってきました。山梨では体験できないことをたくさん体験でき、とても楽しかったです。体調管理に気を付けて来年の修学旅行楽しんでください！

さて、そこで来年行く一年生のためのアドバイスをしたいと思います。

・荷物を準備するときに安心してスムーズに準備できるように飛行機に持ち込んでよいものを早いうちから確認しておくといいです

・タクシーの運転手さんや民泊を受け入れていただく方に山梨からの手土産を持っていくといいです。

・修学旅行に行く日の沖縄の気温を調べて服装を決めた方がいいです（半袖に上着を羽織るくらいが快適でした。海風が少し寒いかも）。

・美ら海水族館では平日でも他校の修学旅行生や観光客がたくさんいて、レジがとても混んでいたのでお土産を買いたい場合はショップへ早めに行った方がいいです（レジに20分以上並びました）。

・親戚や部活に買うお土産は事前にネットで買っておいた方がいいです。

・帰りのバスで渋滞にはまる可能性が大きいので空港で食べ物、飲み物を買っておいた方がいいです

・来年変更になるかもしれませんが、事後学習でポスターを作るのでたくさん写真を撮っておいた方がいいです。

沖縄・美々ビーチ（12月13日撮影）

自学進取

『葬送のフリーレン』が人気だ。アニメ化され、最近では様々なコラボ商品も発売されている。原作は山田鐘人／作画アベツカサ、週刊少年サンデーに連載されている。物語は勇者一行が魔王を倒してからの後日譚から始まるのも異色だ。どこか中世ヨーロッパを思い起こさる街々の風景も美しい。フリーレンという名前もドイツ語で「凍る」フェルン「遠い」、シュタルク「強い」、ヒンメル「空・天国」という意味だそうだから物語を知っている人にとっては納得という感じだろうか。さて、主人公のフリーレンはエルフである。エルフとは日本語では妖精と訳されることが多い。ゲルマン神話に由来し、ウィキペディアによれば「とても美しく若々しい外見を持ち、森や泉、井戸や地下などに住むとされる。また彼らは不死あるいは長命であり、魔法の力を持っている。」とある。１０００（千）年前のこともエルフにとってはつい最近のことだ。歴史で云う千年前はヨーロッパでこれから十字軍が、中国では北方民族が勢いを増し、日本ではこれから武士の時代となる混乱の時代だ。それから千年経った現在も、世界は争いが続き、混とんとしている。これからの千年間はエルフにとってどんな時代なのだろうか。（顧）

都留高ニュース

発行所
山梨県立
都留高等学校
大月市
大月２丁目11-20
編集
都留高校新聞同好会

取材・広告
希望の方は
新聞同好会
（木内）まで

NHKキャスターが生徒？！ 都留高校「よのなか科」

「よのなか科」とは都留高独自のカリキュラムで藤原和博さんを講師に、身近な問題や将来にまつわることについて大人と話をしたり、ディベートをしたりする授業です。あまり関わる機会がない大人と接することができ、自分の人生観が広がる貴重な授業になっています。

今回は「整形」について賛成か反対かについてのディベートをする授業でした。自分に置き換えて考えやすいお題でもあり、どこの班も盛り上がっていました。

ＮＨＫのキャスター、玉木佑貴子さんに感想をお聞きしました。

生徒と討論する玉木キャスター

Q、よのなか科の授業を受けてみての感想は？

ー本当は班の人が全員賛成していたのに、あえて反対意見を述べないといけないことで視野が広がると思いました。自分の考えと逆のことを考えることは大人になったら中々無いので、高校生のうちに経験できるのはすごく良いことだと思いました。

Q、よのなか科を受けている生徒を見ての感想は？。

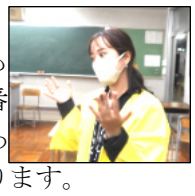
ー私は高校に取材に行くことが多く、高校生というフィルターを通して話をしてしまうんですけど、一人の人間として一緒に知識を深めて大人と対等に話をしている面を見ることができました。特に、大人ぽかった！

Q、よのなか科のような大人と高校生が共に授業を受け、思考力・判断力・表現力を養う授業をどう思いますか？

ー私も高校生の時にやりたかったな、って思いました。目上の方として大人と話すのではなく、一緒に協力して考えるというのは自分の視野を広げるし、貴重な高校生という時間でそれができるのは進路などを考えるうえでもすごく貴重な経験になっていると思います。全国でやってほしいと思いました。

ニュース番組はどうやって作るの？

玉木さんに、普段のお仕事のついてもお伺いしました！



Q、普段のお仕事の様子は？

ー私はリポートを自分で作ることもあれば、６時10分からのニュース番組にキャスターとして出ることもあります。この二つを両立する日もあります。

Q、ニュース番組はどのように作っていくのですか？

ー担当ごとに記者が分かれていて、事前に今日こういう動きがあるので取材に行きます、こういう原稿が出ます、のような予定をみんなで共有して、あとは記者の人たちが急いで書きます。それをデスクという人たちが直して、出稿する感じですね。

Q、この仕事において最も大切なこと、大事にしていることは何ですか？

ーニュースに関しては、絶対に（自分で）意味を理解してから伝えています。「こんな感じかな」という風には伝えないです。というのは、自分の息継ぎ一個によって意味が変わってしまうからです。（原稿には）点が打ってあるけれど、「。」「、」のどっちのニュアンスかな、という時に必ず自分が分かってから放送するようにしています。リポートでは、みんなの日常は私たちにとっては非日常で、すごく面白いことなので、普段のことを紹介するようにしています。見ている人にとってはすごく新鮮だから。いかにみんなの日常に溶け込んで、視聴者の人が「へーそうなんだ」となること、驚くような普段の日常を探しています。

今注目の人　2年5組　大澤葵さん

都留高生として５年ぶりに山梨県高等学校英語スピーチコンテストで優勝し、関東甲信越ブロック大会に出場した大澤さんにインタビューしました。

Q１、大会結果を教えてください。

ー第72回山梨県高等学校英語スピーチコンテスト優勝（です）。第16回全国高等学校英語スピーチコンテスト関東甲信越ブロック大会出場（です）。

Q２、大会に向けてどのような練習をしてきたか教えてください。

ー発表に向けて自分で作った原稿を使ってＡＬＴのジョナサン先生と練習をし、先生からいただいたアドバイスをもとに発表をもっとよく改善しようと練習しました。

Q３、大会に出てみての感想を教えてください。

ー大会に参加できたことがすごくうれしかったです。自分がスピーチをしたこと、他校の生徒のスピーチを聞けたことが自分にとって良い経験になりました。

シリーズ―都留高新聞の歴史⑬　当時の新聞部世論調査

昭和31年10月1日の記事には時代を感じる記事がある。「共学に女子圧倒的賛成：新聞部世論調査」の見出しの記事である。リード文では「去る九月十八日各学年各科別、計九クラス（抽出）に亘って行われた新聞部の世論調査（男女共学は是か非か）は本校の生徒の意識調査をさぐる上に非常に貴重な資料となった」とある。

本文では「全国の高等学校に新教育として男女共学制が施行されて早や八ケ年この間にも論議の対象になり賛否の論評はたえなかった。其の上に〇〇文相が『男女共学は弊害があり、その廃止を考慮すべき段階にきている』と発言して・・」とあり、文部大臣の発言は今なら一歩間違えば炎上・辞任しそうな発言である。

その後の記事で当時の新聞部が生徒約４３５名（各学年各科程別に９クラス）を抽出し男子１９９名、女子２２６名に調査した旨が掲載せれている。

結果は賛成男子16％、女子33％、反対男子22％、女子10％、不明男子11％、女子８％であったとのこと。反対の理由について多かった「風紀の問題」は「果たして男女別クラスが良いとは断言できかねる事で各人の自覚が必要であろう」とし、「男子は半分以上が共学は学力向上にならないということを云っているのは興味ある現象である。」とまとめている。

都留高新聞　昭和31年1月1日　(2)

共学に　女子圧倒的賛成

新聞部世論調査

仕論調査賛否統計表

遠山時計店　山本履物店　近藤製パン店

64

都留高新聞同好会がグランドステージで発表

今年はグランドステージの第２部では初めて新聞部門の発表の時間が割り当てられました。各校２分ずつで４校で活動報告をすることとなり、スライドを作り、発表原稿を作りました。準備段階で顧問から一言。「『突っ込み』と『ボケ』を入れて会場を笑わせた方がいいよ。」顧問の声を無視するわけにもいかず、少しだけ小ネタをいれての発表に笑いが起こり、良かったです。「初めてのグランドステージでの発表でとても緊張しました。しかし、練習した通りに発表することができ、他校の方に自分達の活動を直接知ってもらうことができて良かったです。」

（新聞同好会会長濱尾なな羽）

グランドステージ第２部「新聞専門部」での発表の様子（YCC県民文化ホール）